

I. はじめに

尚綱学園は、平成 25 年度を初年度とする「長期ビジョン（将来像）と中長期行動計画」を基に諸施策を実施しておりますが、開始から 2 年が経過したこと、その間の本学園を取り巻く環境や文教行政の変化を踏まえ、新たな重点目標の設定や優先順位の変更及びタイムスケジュールの再検討等の計画の一部見直しを行い、平成 27 年度は見直し後の目標達成に向けた事業計画といたしました。

平成 27 年度におきましても、女子総合学園としての利点を生かす体制づくりを進めながら、建学の精神を基本に「特色ある教育の質の向上」と「地域連携の強化」に取り組むことといたします。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園の中長期行動計画に於いて、安定的財政基盤の確立を図ることとしておりますが、平成 26 年度は指標とする帰属収支では黒字基調の確立までには至りませんでした。平成 27 年度は、平成 28 年 4 月の認定こども園開設に向けての園舎建築等の支出が発生いたしますが、借入によらず手元資金で対応する計画であることから、日常活動において教育研究に関わる分野以外での支出について更に慎重に対処し、全体として抑制してまいります。

一方、人事制度に関しましては、学園全体に人事評価制度が定着し始めていることから、適正運用のために評価者訓練等を充実させることと併せて、評価に対する信頼性確保のための評価結果のフィードバックを確実に行うことといたします。また、自己申告制度、職員研修体制の強化により、適材適所の人材配置や職員のレベルアップも含め一層円滑な業務運営に努めてまいります。

学園にとって最も重要な学生・生徒の確保にあたっては、学園広報予算の一元管理の下、新たな広報媒体や広報手段を調査・研究することと併せて、これまでの入学者実績を詳細に分析し、その結果に基づいた募集活動を積極的に展開していくことといたします。

また、地域貢献・地域連携強化のため、既存の尚綱子育て研究センター、尚綱食育研究センター、尚綱ボランティア支援センターに加え、平成 27 年度は大学内に地域連携推進センターを新たに設けるほか、図書館の一般開放や学園諸施設の貸出も継続してまいります。

(1) 安定的財政基盤の確立

重点施策	具体策
1. 帰属収支差額の安定的な黒字化と将来に備えた施設設備資金積立の実現 (1) 収入の太宗を占める学生生徒納付金収入に直結	① 各学校及び学部学科の学生生徒募集状況の分析

<p>する入学定員の確保と拡大</p> <p>(2) 国の施策や地域社会のニーズを反映した改革に取り組むことによる特別補助及び加算額の獲得</p> <p>(3) 収入の多様性を図り、外部資金や寄附金など新たな財源の確保</p> <p>(4) カリキュラムや業務の見直しによる適正人員モデルの構築と実施</p> <p>(5) 従来からの恒常的経費節減に加え、取引先の多様化や更なる業務の合理化による経費削減の推進</p> <p>(6) 遊休不動産の処分を含めた所有不動産等の活用方法の検討</p>	<p>② 各学校への入学者に関する過去のデータ収集と分析結果を活かした募集活動の実施</p> <p>③ 他学の学部学科構成と学生募集状況の分析結果に基づいた改組の検討</p> <p>① 特別補助対象事業に関する情報収集と採択条件となる課題への積極的対応</p> <p>② 加算対象の要件となる情報公開項目等の把握と早期の対応</p> <p>① 125周年育英奨学寄附金第2期募集の開始</p> <p>② 教職員の連携による科研費等外部資金獲得のための情報収集と積極的応募</p> <p>③ 民間の機関及び企業等が拠出している研究費や寄附金の獲得</p> <p>① 社会ニーズに対応したカリキュラムの見直しに伴う人員配置</p> <p>② 事務職員の事務量把握と人員配置の見直し</p> <p>③ こども園設置に向けた人員の確保と具体的準備</p> <p>① 提案制度による効率化提案の積極的採用と職員意識の醸成</p> <p>② 既存取引先との内容見直しや新規取引先の採用推進</p> <p>① 校地以外の遊休不動産売却の検討</p> <p>② 校地内の用地利用の見直し</p>
---	---

(2) 人事制度の改革

重点施策	具体策
<p>1. 人事制度の確立と人材育成の仕組みづくり及び計画的な教職員採用と適材適所の人材配置</p> <p>(1) 人事評価制度の定着と適正運用による昇給昇格への反映</p>	<p>① 考課者訓練の充実による評価の適正化</p> <p>② 評価結果の確実なフィードバックによる能力開発や意欲の創出</p> <p>③ 適正評価のための制度改善への継続的取組</p> <p>④ 中高教員及び事務職員の昇格基準規程の制定と運用開始</p>

<p>(2) 人事情報システムの構築と職員の職能別・階層別研修などによる能力向上・育成プログラムの策定</p>	<p>① 人事情報の蓄積及びシステムの内容充実 ② 私大協、日短協、コンソーシアム等外部研修への計画的・積極的な参加 ③ 事務職員の学内研修体制の構築</p>
<p>(3) 計画的な教職員採用と適材適所の配属及び互換性向上のための配置転換</p>	<p>① 自己申告書の活用による退職把握と採用計画への反映及び適材適所への人員配置 ② 業務の互換性向上のための人事異動の実施</p>
<p>(4) 勤務時間管理を含めた職場環境の改善と自己啓発の創出</p>	<p>① 平成 26 年度の有給休暇取得状況や各業務の実態把握 ② 業務内容の見直しによる事務の簡素化 ③ ネットワークの構築と共有ファイルを活用した重複業務の削減 ④ 時間管理の実態把握と対応策の検討</p>

(3) 組織・運営基盤の改革

重点施策	具体策
<p>1. 学園の組織運営機能とガバナンスの強化</p> <p>(1) 法人部門と各学校の管理機能の役割の明確化と連携強化</p> <p>(2) 学園監事の監査機能の充実と監査法人との連携</p> <p>(3) 学園広報の一元化とアカウンタビリティを考慮した広報戦略の明確化</p> <p>(4) 外部機関等の認証評価を参考に、PDCAサイクルによる組織運営への反映</p> <p>(5) 同窓会・後援会・保護者会と各学校・法人との連携強化</p>	<p>① 常勤理事会による意思決定の迅速化と業務遂行の検証の継続 ② 事務部門会議による法人部門と各学校の役割分担の明確化と施策の周知の継続 ③ 各委員会の機能強化と意思決定プロセスの確立</p> <p>① 期中の監査法人監査への学園監事の立会と意見交換 ② 監事単独での業務監査の充実</p> <p>① 正確かつ適切な情報公開の遵守 ② 学園事務局による学園広報予算一元管理と執行状況の検討 ③ 新たな広報媒体や広報手段の調査・研究 ④ 学園広報の年間スケジュール立案と管理</p> <p>① 平成 26 年度自己点検評価書の作成 ② 中学・高等学校における学校評価作成の継続</p> <p>① 同窓会・後援会・保護者会と、学校・法人との連携によるイベント（ホームカミングデイ等）の実施 ② 同窓会連絡協議会の活用</p>

	③ 125 周年記念育英奨学寄附金募集活動の支援依頼の継続
--	-------------------------------

(4) キャンパス整備・学修環境の整備

重点施策	具体策
<p>1. 学園キャンパスと学修環境の整備及び地域に開かれた学園の実現</p> <p>(1) キャンパス整備計画の策定</p> <p>(2) 防災・減災のための危機管理体制の整備と備蓄用品の充実</p> <p>(3) 学生生徒の通学に関わる交通手段の見直し</p> <p>(4) I T 化推進策の策定</p> <p>(5) アリーナ、グラウンド、図書館等の利用・活用方法の検討と推進</p> <p>(6) 寮やセミナーハウス等の利用活用方法の検討と実施</p>	<p>① 両キャンパスの中長期的施設設備計画作成作業への着手</p> <p>② 認定こども園設置のための施設設備計画と着手</p> <p>③ 学生・教職員からの要望事項の把握と要望対応計画の策定</p> <p>① 防災訓練、避難訓練の計画的実施</p> <p>② 防災のための施設点検と危機管理体制の整備</p> <p>③ 備蓄用品の計画的購入と周知</p> <p>① 学生生徒の通学経路及び通学手段の調査分析とスクールバス導入の検討</p> <p>② 現行の楡木タクシー利用状況の分析と最寄駅から楡木キャンパスへの最適な交通手段の再検討</p> <p>① サーバー管理体制の実態把握と見直し</p> <p>② W e b ページのタイムリーな更新と内容の充実</p> <p>① 諸施設の学外利用を含めた活用方法の検討と推進</p> <p>② 図書館の市民開放結果の検証と活用方法の検討と推進</p> <p>① 奨学制度と関連した如蘭学寮の入居者促進方法の検討</p> <p>② ドーミー熊本寮の居室確保策の検討</p> <p>③ 尚綱学舎の利用状況の分析と今後の利用促進策の策定</p>

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

教育面では、全学的な教学マネジメント体制の充実に努めるとともに、学生の主体的な学修を促すべくアクティブラーニングの推進、履修系統図の整備などに取り組めます。

また、26 年度から実施した文化言語学部と総合生活学科の改組について、その成果を検証するとともに、教育の質向上に努めてまいります。

研究面では、尚綱子育て研究センター及び尚綱食育研究センターの円滑な運営と研究推進に努めます。さらに、尚綱地域連携推進センターを設置し、地域との教育・研究の連携を強化してまいります。

また、地域での保育所開設の要請もあることから、認定こども園を平成28年度から開設すべく準備します。

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの追及

重点施策	具体策
<p>1. 建学の精神を盛込んだ自校教育の推進</p> <p>(1) 建学の精神、尚綱の教育理念に基づくカリキュラムの編成と検証</p> <p>2. 教育の質向上に関する組織的取組の強化</p> <p>(1) 学長補佐体制の強化</p> <p>(2) 委員会活動の充実</p> <p>(3) I R室設置の検討</p> <p>3. 学生の主体的な学修の充実</p> <p>(1) アクティブラーニングを含めたシラバスの改善 (主体的な学修を促す教育課程の編成)</p> <p>(2) 学生の学修時間等の把握と充実</p> <p>(3) 学生による授業評価結果の活用と授業公開制度の推進</p> <p>(4) 履修系統図（カリキュラムマップ等）・ナンバリング等の実施</p> <p>(5) 基礎的な教育の充実や習熟度別授業の強化・検証</p>	<p>① ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに沿ってカリキュラムを編成し、そのカリキュラムが学修効果を上げているか検証</p> <p>① 学長・学長補佐会議を設置し、学内管理職の連携を強化</p> <p>① 学内の委員会の活性化</p> <p>① 教育の質保証を実現するため I R（Institutional Research；インスティテューショナル・リサーチ）室の設置を検討</p> <p>① サービスラーニングの活動を含めた科目の改善と学生への魅力度の向上</p> <p>② 参加型学修の取組み促進に向けたシラバスの工夫</p> <p>① 学生の学修に対する実態調査を踏まえ、学修成果の質的向上を目指すための環境を整備</p> <p>① 学生による授業評価の結果を活用し、授業の改善や学修効果・効率の向上。また授業公開制度を継続して実施し、教員間の授業内容の相互理解を深め授業への反映を検討</p> <p>① 履修系統図を整備し、学生の体系的な学びの環境を構築。また教員間（非常勤を含む）で授業の連続性について確認を行い、学修効果の向上努力</p> <p>① 「PROGテスト」の実施による基礎力の確認と学力向上に向けた基礎資料としての活用</p> <p>② ゼミナール形式等による初年次教育の継続実施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ③ 基礎セミナー等、導入教育の充実 ④ DVD通信講座（化学、生物）の推奨の継続と検証 ⑤ 習熟度別授業の検証 ⑥ 基礎学力不足学生の補充学習システムの一部実施
<p>(6) 国家資格や各種資格取得の充実と支援 （文化言語学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 教員採用試験対策講座の充実と継続 ② 司書及び秘書士資格等の取得の指導
<p>（生活科学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 管理栄養士国家試験合格率向上のための対策指導の継続 ② 栄養教諭一種免許状取得課程での教育指導の継続 ③ 食品衛生監視員（任用資格）・食品衛生管理者の資格取得のための教育指導の継続
<p>（短期大学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護職員初任者研修課程、情報処理士、等の各種資格取得を支援〔総合生活学科〕 ② 栄養士免許取得のための教育指導の継続〔食物栄養学科〕
<p>(7) 文化言語学部のゼミナール制の検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 専門教育におけるゼミナール制による指導について検証を継続
<p>4. 学部・学科の改組及び大学院の新設検討</p>	
<p>(1) 受験生のニーズや社会の状況を考慮し、学部・学科の再編（短大の3・4年制化及び専攻科設置を含む）や大学院の新設を検討</p>	
<p>（文化言語学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 2学科制及び大学院の検討
<p>（生活科学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学院のニーズを評価した上で、検討継続
<p>（短期大学部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 受験生のニーズを分析した上で育成する人物像を明確にし、カリキュラムを検討〔総合生活学科〕 ② WGで、3年制、4年制、専攻科の設置などについて一定の結論〔幼児教育学科〕
<p>5. 東アジアを中心とする大学と提携を推進</p>	
<p>(1) 東アジア諸国との大学間交流協定締結の推進と検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 仁徳大学校（韓国）との交流協定後の検証 ② 慈濟大学（台湾）との更なる交流の展開 ③ 大連交通大学（中国）と文化言語学部との交流協定推進
<p>(2) 地域のグローバル化への貢献（留学生と地域と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との交流促進

<p>の交流促進)</p> <p>6. 幼児教育の改革論議（いわゆる幼保一体化）を踏まえ、今後、認定こども園などへの参入を計画</p> <p>(1) 認定こども園新設の研究・設置及び検証</p>	<p>① 認定こども園に必要な人材の確保及び園舎の新設を学園と連携して実施</p> <p>② 認定こども園の保育計画の概要作成、行政機関との調整、園児募集、地域への呼びかけ等</p> <p>③ 28年4月開設予定</p>
---	--

(2) 学修意欲あふれる学生の確保

重点施策	具体策
<p>1. 大学入学者選抜改革への対応</p> <p>(1) 大学入学者選抜改革を踏まえた選抜方法の研究と実施に向けた準備</p> <p>(2) 受験生の能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜の実施</p> <p>2. 学部、学科の改革による入学定員確保</p> <p>(1) 文化言語学部の改組後の新コースの検証と2学科制の検討</p> <p>高校訪問と高校教諭との連携</p> <p>尚綱高校生徒のニーズ調査の実施</p> <p>(2) 総合生活学科の改組と検証</p> <p>尚綱高校生徒のニーズ調査の実施</p> <p>3. 出前授業、体験的な授業、オープンキャンパス、入試広報の強化</p> <p>(1) 高大連携の積極的展開</p>	<p>① 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)活用に向けた実施内容の研究</p> <p>① 受験生の減少傾向を勘案して多面的に評価する入試(推薦・AO・自己推薦など)を再検証し、新たな入試方法を検討</p> <p>① 現代コミュニケーションコースの検証を踏まえた検討の継続</p> <p>② 平成27年度入試動向の検証</p> <p>③ 平成28年度入学定員確保に向けての活動</p> <p>④ 尚綱高校生徒のニーズ調査の検証と継続の検討</p> <p>① 平成27年度入試動向の検証</p> <p>② 尚綱高校教員へのヒヤリングの実施の継続</p> <p>③ 高校訪問における進路担当者、自治体、企業関係者、同窓生で企業の経営者等へのヒヤリングの実施</p> <p>④ 平成28年度入学定員確保に向けての活動</p> <p>① 入学前教育の継続実施</p> <p>② 尚綱高校への出前授業、大学での授業参観、進学ガイ</p>

<p>(2) 入試広報戦略の強化</p> <p>(3) 入試における県外受験地の実施・検証</p> <p>4. 同窓会・後援会との連携推進</p> <p>(1) 大学情報の提供と受験者情報の収集</p>	<p>ダンス、オープンキャンパスの継続実施</p> <p>③ 尚綱高校との連携事業の継続実施</p> <p>① 高校訪問、出前授業、学校説明会への積極的参加と動向分析</p> <p>② 高校訪問、出前授業、学校説明会、進学ガイダンス、オープンキャンパス入試説明会等への積極的対応</p> <p>③ ホームページ活用による学部・入試情報の提供</p> <p>④ 各学科独自の高校訪問によって学科内容の周知の徹底</p> <p>① 一般入試（第1回）において地方試験会場を鹿児島と宮崎市に設置</p> <p>② 地方試験の検証</p> <p>① 同窓会・後援会との連携強化のための尚綱祭及び第3回ホームカミングデイの充実</p> <p>② 教育界で活躍する本学出身の卒業生の把握</p> <p>③ 企業経営等をされている同窓生を訪問し、情報収集の実施</p>
---	---

(3) 学生支援活動

重点施策	具体策
<p>1. 奨学金制度、表彰制度の整備</p> <p>(1) 新制度の検証</p> <p>2. 学生に対する健康相談、心的支援の強化</p> <p>(1) 学生生活の心身面の支援充実</p> <p>3. 就職支援の充実</p> <p>(1) 全学的就職支援体制の強化</p> <p>4. サークル活動の活性化</p> <p>(1) 学生に意見を求め、サークル活動の活性化を支援</p> <p>(2) ボランティア活動の活性化を支援</p>	<p>① 新制度実施の評価を行い、課題等について検証</p> <p>① 各学科の実態を把握し、加えて全学的な課題を検討</p> <p>① 各学科の実態を把握し、課題等を検討</p> <p>① クラブ活動実績のまとめ</p> <p>① ボランティア支援センター主催事業の開催</p> <p>② ボランティア情報登録システムの整備</p>

(4) 研究力向上の支援

重点施策	具体策
<p>1. 研究センターの充実・強化</p> <p>(1) 尚綱子育て研究センターの研究推進と運営</p> <p>(2) 尚綱食育研究センターの研究推進と運営</p> <p>2. 研究費の配分の適正化</p> <p>(1) 外部研究費の獲得強化</p> <p>(2) 研究費配分方法の検証</p>	<p>① 保育実践についての保育現場との共同研究</p> <p>② 認定子ども園にむけた教育・保育のあり方を研究</p> <p>③ 地域との連携（行政との共同研究、地域住民への専門知識の提供）、公開シンポジウムの開催</p> <p>① 食育研究センターの円滑な運営、研究推進のための方策を検討</p> <p>① 科研費申請の義務化の検討</p> <p>② 科研費以外の外部研究費情報の提供推進</p> <p>① 27年度の実施状況の見直し</p>

(5) 地域連携・地域貢献に推進

重点施策	具体策
<p>1. 地域の特色に応じた教育・研究と地域活性化の促進</p> <p>(1) 尚綱地域連携推進センターの設置及び研究推進と運営</p> <p>(2) 自治体等との包括連携協定の締結</p> <p>(3) 地域特性を踏まえた研究と地域社会と連携した地域課題解決のための教育プログラムの策定</p> <p>(4) 地域の学校等への教育支援・子育て支援</p> <p>(5) 企業等との研究成果のマッチングの促進</p> <p>(6) 地域の歴史、町並み、文化、芸術、スポーツ等の活性化策の研究と貢献</p> <p>(7) リカレント教育の充実</p>	<p>① 地域連携推進センター室設置と推進体制構築</p> <p>② 地方公共団体との包括協定書締結</p> <p>③ 地域連携推進センターによる学部が策定した具体策のサポート</p> <p>① 菊陽町との連携協定の検討</p> <p>② 熊本市・合志市との連携の検討</p> <p>① 教員の専門と地域の要請との整合性の検討</p> <p>① 大津高校など、近隣地域の中学・高校等との連携教育の検討</p> <p>② 地域の学校等への食育指導、子育て支援の推進</p> <p>① 学内研究シーズの調査と企業との協力体制の検討</p> <p>① 地域の食文化等に関する研究の検討</p> <p>② 地域での公開講座の検討</p> <p>① 介護福祉士受験対策講座等を実施</p>

<p>2. 地域に開かれた研究拠点の推進</p> <p>(1) 自治体や地元産業界等のニーズを踏まえた社会人教育プログラムの策定（講演会、公開講座等の充実）</p> <p>(2) 社会人受け入れの促進（正規課程、履修証明プログラム、科目等履修生）</p> <p>(3) 図書館をはじめ学校施設等の地域への開放</p>	<p>② 管理栄養士国家試験対策講座を継続実施</p> <p>③ 保育講座の実施の検討</p> <p>① 「第26回尚綱公開講座」の充実</p> <p>② 「第9回尚綱大学文化言語学部公開講座」の充実</p> <p>③ 地域や地方公共団体からの講演会・研修会・相談会等に積極的に対応し、地域協定締結と活性化に貢献</p> <p>① 履修証明プログラムの導入を検討</p> <p>① 社会人（地域住民及び公開講座受講生）を対象とした利用の継続実施</p>
--	--

(6) 次期認証評価への対応

重点施策	具体策
<p>1. 大学・短期大学部における第三者評価への適切な対応</p> <p>(1) 自己点検評価部門の組織体制の強化</p> <p>(2) 内部質保証の検証</p>	<p>① 大学は、「自己点検・評価実施要領」を作成し、PDCAサイクルにより内部質保証システムを機能させるとともに、検証可能な仕組みを構築</p> <p>① 短大部は、「評価マトリックス」（授業科目とディプロマポリシーとの対応を分かりやすく示した表）を作成し、ディプロマ・ポリシーで定めた能力を、卒業までに個々の学生に身につけさせるための仕組みを構築し、質保証を実施。平成27年度は、「評価マトリックス」による内部質保証の検証実施</p>

3. 尚綱中学・高等学校

平成26年度は、前年度から継続して取り組んだ国際交流、学力向上、カリキュラムの検討、高大連携事業、部活動の推進と進路保障、ボランティア活動、礼法教育、環境美化に加えて、「ことば教育」「学校評価制度」に取り組み、『見つめる、自分。みつける、わたし。』のキャッチコピーの下、教育内容の一層の充実と「尚綱らしさ」の追及に取り組みました。国際交流・部活動の推進・進路保障では、一定の成果が得られたものの、その他の面では十分とは言えず、継続して取り組むと共に、2020年から実施予定の高大接続テスト（仮称）に対応した教育

課程及び指導方法の研究に着手し、総合・特進・一貫コースのそれぞれの特色あるコースづくりによる、「尚綱らしさ」の一層の追及に取り組みます。

学習意欲あふれる生徒の確保については、プロジェクト委員会で年間活動計画を策定し、特に本校の恵まれた教育環境と安心で快適な学校生活の様子、特待生制度の充実、女子校の魅力等を前面に打ち出して、広報部を核として全職員で募集活動を展開しました。しかし、昨年度の実績に及ばぬ結果となり、年間の広報活動を総点検してより効果的かつ効率的な募集活動を再構築したいと思います。

生徒支援、指導力向上、地域連携における取り組みは年間計画に則りほぼ予定通りに実施致しました。中でも文化祭・ホームカミングデイでは保護者会・同窓会の積極的なご協力を得ることができました。一方、指導力向上においては各種研修会の成果が十分に得られたとは言い難く、一層の取り組みを推進します。さらに、地域連携における本校主催の各種行事の一層の充実を推進すると共に、26年度で終了となった『はなしのぶコンサート』に替わるギターマンドリンコンサートを6月に九品寺校地内で開催する予定です。

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの追求

重点施策	具体策
<p>1. 人間教育プログラムの充実</p> <p>(1) 諸活動の総合的・計画的な年間計画の策定と実施の推進</p> <p>(2) 外部組織や外部人材の積極的な活用</p> <p>(3) 尚綱塾・礼法教育の推進</p> <p>(4) 各種講演会の開催</p> <p>(5) 図書館教育の推進</p> <p>2. 基礎学力の確立</p> <p>(1) 魅力ある授業の推進</p> <p>(2) 総合コース全員課外授業の推進</p> <p>(3) 尚綱ゼミの推進</p> <p>(4) 小論文指導の強化</p> <p>(5) 自学・自習の習慣化</p> <p>3. 課外活動の活性化と進路保障</p> <p>(1) 生徒会活動の推進</p>	<p>① 年間計画に則り実施</p> <p>② 28年度案の検討</p> <p>① 講演会・学年講話・各種研修会等に随時活用</p> <p>① 年間計画に則り実施</p> <p>② マナー検定試験全員受験</p> <p>① 年間計画に則り実施</p> <p>① 朝読書の実施内容の再検討</p> <p>② 定例図書委員会の開催</p> <p>③ 図書部研修の開催</p> <p>① 研究授業・授業観察の実施</p> <p>① 課外授業の充実</p> <p>① 放課後、個々の進路志望に対応した課外授業を実施</p> <p>① 高校全学年で実施</p> <p>① 中高の全校生徒対象に指導を徹底</p> <p>② 学習の記録帳を活用</p> <p>① 常任委員会の定例開催</p>

<p>(2) 部活動の推進</p>	<p>② 学校行事の企画運営 ③ 中高大連携による活動の実施</p>
<p>(3) 課外活動（生徒会活動・部活動など）の実績を活かした推薦入試・AO入試活用による進学指導の推進</p>	<p>① 部活動紹介の開催 ② 体験入部期間の設定による部員勧誘 ③ 高校総体・総文祭での全校応援の実施 ④ 中体連・高体連等の大会での全国上位入賞</p>
<p>4. 国際交流の推進</p>	<p>① 部員対象の進路説明会の開催 ② 部活動顧問対象の進路説明会の開催 ③ 部活動顧問・担任への入試情報提供</p>
<p>(1) 海外修学旅行の実施</p>	<p>① 海外への修学旅行実施</p>
<p>(2) 姉妹校提携の推進</p>	<p>① 希望者による韓国蔚山市立鶴城女子中学校訪問予定</p>
<p>(3) 短期・長期留学の推進と留学制度の策定</p>	<p>② 鶴城女子中学校との姉妹校提携を予定</p>
<p>(4) 留学生受け入れの推進</p>	<p>① 留学情報の提供 ② 留学に関する説明会の開催 ③ 単位修得に関する制度の策定</p>
<p>(5) ICC利活用の推進</p>	<p>① 外部団体との連携による希望者の受け入れ ② ホストファミリーの開拓</p>
<p>(6) 英語検定試験の推進</p>	<p>① 昼休み・放課後にICCを開放 ② 季節毎にイベントを開催</p>
<p>5. 各コースの特色作り</p>	<p>① 各種英語検定試験の実施</p>
<p>(1) カリキュラムの検討</p>	<p>① 検討委員会で検討</p>
<p>(2) クラス編成の検討</p>	<p>① 検討委員会で検討</p>
<p>(3) 進路実績の向上</p>	<p>① 課外授業・模擬試験の実施と結果分析 ② 特進コース指導者による模試検討会の開催 ③ 総合コース履修科目の検討と対策</p>
<p>6. 中高大連携の推進</p>	<p>① 高大連携授業の実施</p>
<p>(1) 中高大連携事業の推進による特色化・差別化の確立</p>	<p>② 学部学科説明会の開催 ③ 出前講義の開催 ④ キャンパス見学会への参加 ⑤ 中高合同による学校行事の実施（体育祭・文化祭・金峰山登山・クラスマッチ）</p>

(2) 学園内進学における入試制度の改革	① 高大連携推進協議会で審議
(3) 中高大職員の交流と情報交換の推進	① 入試連絡会の開催 ② 相互の情報交換の推進
(4) 中高大学生・生徒の交流と組織の連携	① 火の国祭りに合同で出演予定 ② 合同によるボランティア活動の実施

(2) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
<p>1. 広報活動の推進</p> <p>(1) 広報活動の再構築</p> <p>(2) 恒常的な小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の推進</p> <p>(3) 広報担当職員のスキルアップ</p> <p>2. 女子校の長所・強みの広報活動の推進</p> <p>(1) 女子教育の長所・強みを活かした広報活動の推進</p> <p>(2) 県下女子校との連携を推進</p> <p>3. 特待生制度の活用</p> <p>(1) 特待生制度の活用による学力・特技に優れた生徒獲得の推進</p> <p>(2) 特待生制度の再検討</p>	<p>① 26年度の広報活動全般(訪問活動・説明会・オープンキャンパス・広報媒体等)の検証と年間計画の策定</p> <p>① 担当職員を配置し訪問活動を徹底</p> <p>① 外部講師による研修会を実施 ② 担当職員の内部研修を実施</p> <p>① 説明会・訪問活動での徹底 ② 広報媒体でのPRの徹底</p> <p>① 熊本県大学進学支援事業を活用した八代白百合学園高等学校との壺溪塾講師による講義を合同受講(特進1・2年で各学年、年間10回程度実施予定))</p> <p>① 小学校・中学校・学習塾・クラブチーム等への訪問活動を展開</p> <p>① 新特待生制度の策定</p>

(3) 生徒支援改革

重点施策	具体策
<p>1. 進路指導の充実</p> <p>(1) 進路相談の充実</p>	<p>① 進路指導部・学年・担任の連携強化と進路情報の周知徹底</p> <p>② 中1～高2は1学期と夏期休業中に二者・三者面談を</p>

<p>(2) 課外授業の充実</p> <p>(3) 尚綱ゼミの推進</p> <p>(4) 進路情報の収集と生徒・保護者への情報提供の徹底</p> <p>(5) 高大接続テスト（仮称）の研究及び対策の検討</p> <p>2. 教育相談の充実</p> <p>(1) 個人面談の推進</p> <p>(2) カウンセリングの充実</p> <p>(3) 保護者対象の教育座談会の実施</p> <p>(4) 外部組織・人的支援の活用</p> <p>3. 奨学生制度及び表彰制度の活用と制度の再検討</p> <p>(1) 現行制度の活用と制度の再検討</p> <p>4. 育友会との連携推進</p> <p>(1) 保護者会の充実</p> <p>(2) 総会・定例委員会活動への協力推進</p> <p>(3) 地区会の推進と内容の充実</p> <p>(4) 学校行事での連携推進</p>	<p>実施</p> <p>③ 高3は1学期初めと夏期休業中に三者面談を実施</p> <p>④ 夏期休業中に就職希望生徒及び保護者対象説明会を実施</p> <p>① 課外授業の徹底と結果の検証による内容の充実</p> <p>① 年間計画に則り平日の放課後に実施</p> <p>① 外部研修会・説明会等への積極的な参加と情報収集の推進</p> <p>② 保護者会・面談・学年会進路指導部等における情報提供の徹底</p> <p>③ 「尚綱通信」を発行</p> <p>① 情報収集と対策の検討</p> <p>① 1学期に全校での個人面談の実施</p> <p>② 生徒情報共有化のための職員研修の実施</p> <p>③ 中1で夏期休業中に家庭訪問を実施</p> <p>① 毎週火曜日にカウンセリングを実施</p> <p>② 外部専門医の活用</p> <p>① 年間2回の教育座談会を開催</p> <p>① 県の派遣事業による熊本時習館SSW及び当別支援相談員の継続活用</p> <p>① 奨学生採用の検討</p> <p>② 学園育英褒賞その他の表彰対象生徒の選考</p> <p>③ 奨学生制度の再検討</p> <p>① 学期ごとの開催</p> <p>② 開催曜日の検証と、内容・配付物の検討</p> <p>① 総務部と育友会役員の協働による総会及び役員会の準備と実施</p> <p>① 開催地区、内容の検討</p> <p>② 出席者勧誘の推進</p> <p>① 文化祭・ホームカミングデイ・体育祭・尚綱コンサート・金峰山登山等への協力依頼</p>
---	--

5. 同窓会・後援会との連携の推進	
(1) 同窓会・後援会総会等への出席の推進	① 各種会合への積極的参加
(2) 学校行事での連携推進	① 文化祭・ホームカミングデー・尚綱コンサートへの協力依頼
(3) 卒業生名簿の作成	① 同窓会事務局と協働で作成

(4) 教育指導力の向上

重点施策	具体策
1. 職員研修の推進	
(1) 授業力の向上	① 学期毎に2教科で全員参加の研究授業及び合評会を実施 ② 各教科で授業研究を実施
(2) 校内研修の充実	① 年間計画に則り、各部・各委員会主催の全員研修会の実施 ② 学年主任及びコース主任会、教科主任会、若手育成研修の実施
(3) 外部研修の推進	① 外部の各種研修会に積極的に派遣 ② 他校視察研修の実施
(4) 研修内容の共有化と実践の督励	① 研修報告・研修内容復講・研修資料配付の徹底 ② 研修成果の実践督励

(5) 地域連携の推進

重点施策	具体策
1. 地域の諸活動の支援とボランティア活動の推進	
(1) 合同練習会開催の推進	① 中高体育系部活動による外部小学・中学・高校・団体との合同練習会の開催 ② ギターマンドリン部OGとの合同練習会の開催
(2) 外部への生徒・指導者の派遣推進	① 各種大会主催者からの要請に応じて派遣
(3) ボランティア活動の推進	① 各種ボランティア活動への派遣推進 ② 九品寺校地周辺の清掃活動
(4) 本校主催の各種大会の開催	① 尚綱コンサート・尚綱杯ソフトテニス大会・小学生尚綱英語暗唱大会・ギターマンドリンコンサートの開催

(5) 尚綱塾シニア講座の充実	① 尚綱学舎で一般対象の公開講座を開催
-----------------	---------------------

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 学校評価の実施	
(1) 学校評価アンケートの実施	① 生徒・保護者対象のアンケート調査の実施
(2) 自己評価の実施	① 自己評価委員による評価の実施 ② 全職員による評価の実施
(3) 学校関係者による評価の実施	① 学校評価委員による評価の実施

4. 尚綱大学短期大学部附属幼稚園

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの追及

重点施策	具体策
1. 特色ある幼稚園づくり	
(1) 豊かな自然環境を生かした教育	① 親と子の豊かな自然体験の推進 クワガタ捕り体験、ロープ遊び体験、 穴掘り体験等実施
(2) 豊かな心をはぐくむ絵本教育	① 「絵本読み聞かせ」について保護者との連携活動実施
(3) 国際理解教育	① 外国人を招き園児との触れ合い遊び実施
(4) 環境教育	① 節電の習慣の徹底
(5) 安全教育	① 交通安全指導の推進 ② 遊具の安全指導
2. 特別支援教育	
(1) 特別支援教育	① 発達相談会の実施 ② 個別の支援計画作成

(2) 園児の確保

重点施策	具体策
------	-----

<p>1. 教育環境の整備</p> <p>(1) バスコース検討</p> <p>(2) 魅力ある自然環境づくり</p> <p>(3) 預かり保育増員の検討</p> <p>(4) 給食の検討</p> <p>2. 認定こども園の検討</p> <p>(1) 認定こども園の検討</p>	<p>① 菊陽町・合志市方面バスコース見直し検討</p> <p>① 森づくりの計画</p> <p>① 保護者のニーズ調査の実施</p> <p>① 保護者のニーズ調査の実施</p> <p>① 認定こども園設置準備</p> <p>② 規定の変更</p> <p>③ 職員の採用・配置</p> <p>④ 保護者への説明会実施</p> <p>⑤ Web ページの更新</p> <p>⑥ 園案内作成と配布等広報活動実施</p> <p>⑦ 認可確認申請</p> <p>⑧ その他（地域・役場との交渉・広域調整等）</p>
---	---

(3) 保護者支援改革

重点施策	具体策
<p>1. 子育て支援</p> <p>(1) 親の学び講座</p> <p>(2) 教育相談事業</p>	<p>① 保護者に対する講演会の実施</p> <p>② 「おしゃべり広場」事業の実施</p> <p>① スクールカウンセラー検討</p>

(4) 指導力向上のための支援

重点施策	具体策
<p>1. 研修の充実</p> <p>(1) 園内研修・園外研修</p> <p>(2) 実習指導</p>	<p>① 熊本県私立幼稚園連合会テーマ研修</p> <p>① 実習生研究保育の指導計画の検討</p>

(5) 地域連携を視野に入れた指導力向上の研修の推進

重点施策	具体策
<p>1. 地域連携活動</p> <p>(1) 未就園児親子登園</p>	<p>① 「おいでおいで」の会の実施</p>

(2) 小中高との連携	① 中高生による職場体験の実施 ② 幼小連携活動の実施
(3) 地域との連携	① 高齢者と、「もちつき」「たこあげ会」実施

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 学校評価 (1) 学校評価	① 自己評価結果の公表と保護者への説明 ② 保護者アンケート実施 ③ 学校関係者評価委員会開催